

校正ノート

No.21
2016.7



栃木県フロンティア認証企業
感謝を込めて情報発信 喜びと感動を創造する
晃南印刷株式会社
プリプレス部
校正担当／中里（内線 301）
制作／大橋（内線 304）

最近の
言葉は…

雨模様

さわり
(触り)

ハッカー

本来の意味は、「今にも雨が降り出しそうな空の様子」で、雨が降っていない状態を指すが、最近の言い方では、「小雨が降ったり、やんだりする」という意味で使われている。



例えば、話のさわりと言った場合、話の最初の部分という意味で使うのは誤り。話のさわりとは、話の聞かせどころ、要点やもっとも興味をひく部分を指す。音楽で言えば、曲のイントロではなく、サビのところ。元々は浄瑠璃で使われた言葉で、義太夫節以外の曲の優れた部分を義太夫節に取り入れたところからきているとのこと。

破天荒

ハッカーって、コンピューターに侵入して不正行為を行う人のことを言うのかと思っていたら、本来は、コンピューターに関して深い知識を持ち、さまざまな技術に通じた人のことを言うのだとか。本来の意味との誤用を避けるため不正行為を行う者をクラッカーとする言い方がある。



「豪快で大胆な様子」で使われることが多いが、本来の意味は、「誰もなし得なかつたことを初めて行うこと」、「前代未聞」。故事成語。天荒は、未開の地、凶作で雑草の生い茂る地のことであるが、中国は唐の時代、荊州で科挙（官吏登用試験）の合格者が出なかつたことを天荒と言った。やがて劉蛻（りゅうぜい）という人が科挙に合格したことを天荒を破つたと言った故事が由来。めちゃくちゃなことをするという否定的な言葉でなく、褒め言葉の意味合いが強い言葉である。

同音異義語・同訓異義語の使い分け、似た言葉で間違いやさしい使い方等、校正中これでいいのかともやもやした気持で仕事を進めると後味が悪い。調べると宙に舞っていた言の葉の意味がひらりと掌に落ちて、すっきりする。

七夕を「たなばた」と読むのは何故か

元々「しちせき」と読まれていた七夕が「たなばた」と読まるようになったのは、「棚機つ女」（たなばたつめ）という言葉からきている。「棚機つ女」とは、日本古来の神様に捧げる神御衣（かみこ）を織り上げる女性のこと。中国の織姫伝説と棚機つ女が結びついで「たなばた」となった。



彦星の「彦」とは

「ひこ」は古代の男性の美称で、「ひめ」の対義語となる。海幸彦・山幸彦・猿田彦（さるたひこ）・長髓彦（ながすねひこ）・天稚彦（あめわかひこ）等々、日本の神話では彦がつく神様がいっぱい。「おとこ」が「おとめ」と対応するように、「こ」は男性を表す。なるほど、小野妹子、蘇我馬子は男だからね。女子に「子」を付けるようになったのは、平安時代かららしい。



7月歳時記

- 1日（金）半夏生（はんげしょう）… 雜節の一。半夏という毒草が生える天候不順の時期
- 7日（木）小暑……………二十四節気の一。どんどん暑くなり、集中豪雨の発生も
- 七夕……………そうめんを食べる「そうめんの日」もある
- 15日（金）お盆……………きゅうりの馬は迎え盆に早く帰ってこられるように、なすの牛は送り盆にゆっくり帰れるように
- 16日（土）藪入り……………後の藪入りとも。閻魔王の休日もあるそう
- 18日（月）海の日……………元々は「海の記念日」。1996年から国民の祝日に
- 19日（火）夏土用入り……………土用は、立秋前の18日間。この期間を暑中と呼ぶ
- 22日（金）大暑……………梅雨明けの時季。実際の暑さのピークはもう少し先
- 28日（木）石榴忌：江戸川乱歩……「現世はゆめ よるの夢こそまこと」
- 30日（土）土用の丑の日……………江戸時代、この日にお灸をすえた（土用灸）
- 谷崎潤一郎忌……………『蘆刈』女性崇拝の帰結点

- 妖怪ハンゲ 半夏生は、この時期まで農作業を済ませる目安となっており、半夏生から5日間は農作業を休むという風習がある。終わらないと妖怪ハンゲに出会うという～三重県熊野地方・志摩半島沿岸部などに伝わる説話
- 七夕には麦の収穫祭の意味があり、そうめんを食べる習慣はそこからきている。古代中国では、索餅（さくべい、小麦粉と米の粉とを練って、縄の形にねじって油で揚げたもの）を食した。

栃木市
巴波川（うずまがわ）

かつ散歩

生まれも育ちも栃木市。実家とお墓があります。
お盆は7月。久しぶりにお墓参りをしたいと思います。
この近くで働いていた両親。きっと歩いただろう巴波川沿いの小道。
今も昔も変わらない巴波川の流れと風景を写真におさめました。

